

4 文節の働き

4-1 解説

1 連文節

二つ以上の文節が一まとまりになって一文節と同じ働きをするものを連文節という。

- [例] (1) 花が 咲く。 主部 … 大輪の赤い花が 咲く。
 (2) 雪が 降る。 述部 … 雪が 降っている。
 (3) 風が 沖から 吹く。 修飾部 … 風が 遠い沖から 吹く。
 (4) 疲れたので 休もう。 接続部 … ひどく疲れたので 休もう。
 (5) パリ、憧れの都だ。 独立部 … 花のパリ、憧れの都だ。
 → 連文節でできている文の成分は、「～部」と呼ぶ。

[例] くねくねと曲がりながら続く山道が、ずっと先まで 続いている。

2 並立の関係・補助の関係

必ず連文節となって一つの働きをするもの。

(1) 並立の関係にある文節…二つ以上の文節が対等に並ぶ関係

全体で一つの文の成分(主部など)になる。一つ一つを並立語という。

- [例] ① バスや トラックが 走る。 並列の関係(主部)
 ② 店で 筆と 鉛筆を 買う。 並列の関係(修飾部)

(2) 補助の関係にあるある文節…あとの文節が前の文節に意味をそえる関係

全体で一つの文の成分(述部など)になる。下の語を補助語という。補助語は必ずひらがなで書く。

- [例] ① 犬が ほえて いる(居る)。 補助の関係(述部)
 ② 泣いて いるので(居る) なぐさめよう。 補助の関係(接続部)
 ③ 大都会は 静かでない(無い)。 補助の関係(述部)
 ④ そのボールを 投げて ほしい(欲しい)。 補助の関係(述部)